

ぎふ感染症かわら版

令和5年6月26日 岐阜県感染症情報センター（岐阜県保健環境研究所）



「マダニ」に咬まれないよう注意しましょう！

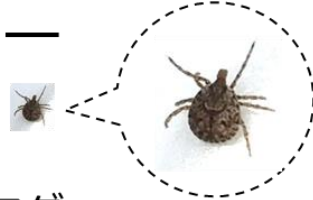
野山に生息するマダニに咬まれると日本紅斑熱や重症熱性血小板減少症候群(SFTS)などの「ダニ媒介感染症」に罹患することがあります。マダニの活動は春から秋にかけて活発化するため、草むらなどで行動する際は、熱中症に注意しつつ、肌を露出しないなどの感染予防対策を行いましょう。もし咬まれた時は数週間程度体調の変化に注意し、発熱等の症状がでた場合は速やかに医療機関を受診しましょう。

直径2cm



1円硬貨

～約0.5cm



マダニ
(吸血前)

～約1.5cm



マダニ
(吸血後)

吸血前のマダニは通常0.5cm程度と小さく、気づかないうちに衣服に付着していることがあります。



マダニから身を守るために行っていただきたいこと

● 生息場所に注意する

▶ マダニは、民家の裏山や裏庭、畑、あぜ道などにも生息しています。

● 身を守る服装をする（※熱中症予防も十分行ってください）

▶ マダニが生息しているような場所では腕・足・首など、肌の露出を少なくしましょう。

（例：長袖、長ズボン、手袋を着用し、首にはタオル等を巻きましょう。）

▶ マダニが侵入しないよう、衣服の隙間を覆いましょう。

（例：袖口を手袋の中に入れる。シャツの裾をズボンの中に入れる。など）

● 屋外での活動後も気を抜かない

▶ 作業服などは、家の中に持ち込まないようにしましょう。

▶ ガムテープを使って服に付いたダニを取り除く方法も効果的です。

● その他

▶ マダニに対する忌避剤(虫よけ剤)を、上記の方法と組み合わせて使用しましょう。



ダニ媒介感染症について

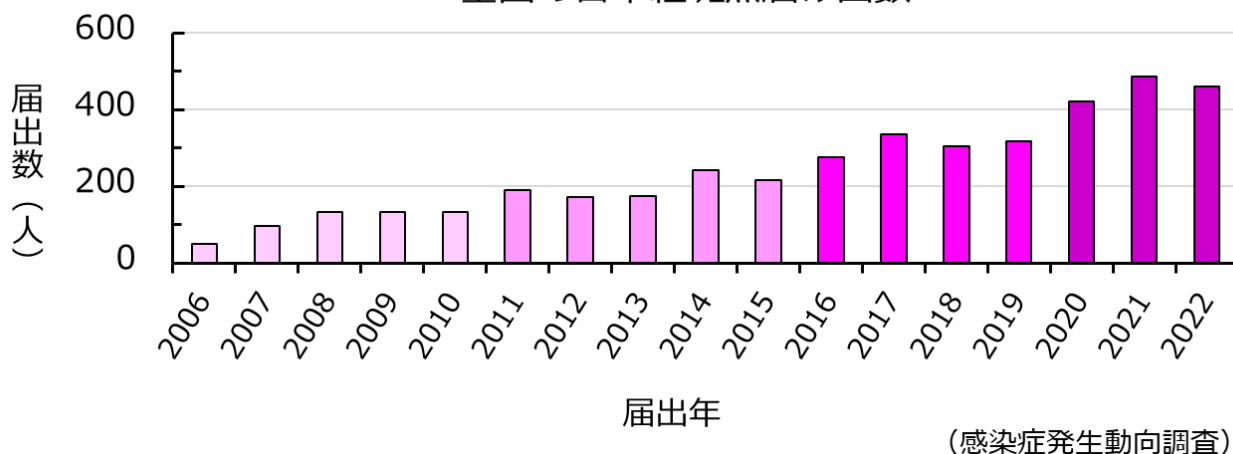
これまでに岐阜県では、日本紅斑熱、ライム病及びツツガムシ病（マダニではなくダニの仲間ツツガムシが媒介）の発生が報告されています。2021年に初めて岐阜県で報告された日本紅斑熱は、その発生地域が全国で拡大し続けており、発生報告も増加しています。今後も岐阜県において発生することが予想され注意が必要です。

● 日本紅斑熱について

紅斑熱群に分類されるリケッチア(偏性細胞内寄生細菌)によって起こる感染症です。一部のマダニがこの病原体を持っており、それに刺されると感染します。感染すると発熱、発疹や肝機能障害といった症状が現れ、多くの患者にマダニの刺し口がみられます。時に多臓器不全により死亡に至ることもあり、マダニから身を守る対策を適宜とることが重要です。

日本紅斑熱などのリケッチア症には有効な抗菌薬があるので、早期に治療が行われると症状は改善しますが、遅れると重篤化することもあります。そのためもしマダニに咬まれた場合は、数週間程度体調の変化に注意し、発熱等の症状がでた場合は速やかに医療機関を受診しましょう。

全国の日本紅斑熱届け出数



(感染症発生動向調査)

(参考) 厚生労働省ホームページ (ダニ媒介感染症)

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164495.html>



保育所や幼稚園、高齢者施設など、希望される施設に対して「ぎふ感染症かわら版」のメール配信もおこなっています。くわしくは岐阜県感染症情報センターホームページをご覧ください。

岐阜県感染症情報センター

